

水源環境保全・再生に係る将来像とモニタリング（案）

1 森林の保全・再生

将来像

公益的機能（水源かん養、土砂流出防止、生物多様性の保全等）の高い森林づくり

調査方法

「森林モニタリング調査」の「対照流域法」等により、水量や水質、動植物相、土壌、土砂流出量などの変化を調査する。また、「水源の森林づくり事業」等の各事業についても、光環境、植生状況、土砂移動量等を調査する。

県内の人工林の整備状況を調査することにより、全体を把握する。

2 河川の保全・再生

将来像

- (1) 県民の水がめにふさわしいダム湖の水質
- (2) 自然浄化機能の高い河川・ダム湖
- (3) 貯水機能の高いダム湖

調査方法

既存の公共水域の水質測定を活用するとともに、「河川モニタリング調査」により、動物、鳥類、水生植物等を調査する。また、「河川・水路における自然浄化対策」事業において、事業実施前後の水質、植物、動物を調査する。

(3) については、「森林もモニタリング調査」の土砂流出量等により検討する。

3 地下水の保全・再生

将来像

- (1) 持続可能な地下水利用
- (2) 地下水汚染のない水道水源地域

調査方法

既存の地下水の水質測定を活用し、県全体の地下水汚染の状態を把握する。また、「地下水保全対策」事業において、水位、水質を調査する。

4 水源環境への負荷軽減

将来像

水質・水量両面における負荷の軽減

調査方法

県内ダム集水域における公共下水道や合併処理浄化槽の整備状況の経年変化に基づき、負荷量の軽減状態を把握する。